

第十一回

香川靖嗣の會

—秋—

狂言

鐘の音

山本則俊

能

遊行柳

香川靖嗣

平成28年9月3日(土)

午後2時開演 (1時開場)

十四世喜多六平太記念能樂堂



第十一回 香川靖嗣の會 —秋—

狂言 鐘の音

お話 金子直樹
柳桜をこきまぜて

狂言 鐘の音

能 遊行柳

シテ 山本則俊
アド 山本泰太郎
山本則重

前シテ／老人 香川靖嗣
後シテ／朽木の柳の精 宝生欣哉
ワキ／遊行上人 山本東次郎
アイ／里人 山本幸弘
笛 一 幸弘
小鼓 鶴 澤 洋太郎
大鼓 國 川 純
太鼓 観 世 元 伯
後見 塩 津 哲 生
中 村 邦 生

大島 輝久 長島 茂
友枝 雄人 粟谷 能夫
狩野 了一 友枝 昭世
金子敬一郎 粟谷 明生

息子が成人したので、黄金を熨斗付にした刀を持たせようと思った主人。太郎冠者呼び出して、鎌倉に行つて付け金の値を聞いてくるように命じます。太郎冠者は「付け金の値」を「撞き鐘の音」と聞き違え、なぜ鐘の音を聞いてくるのか不審に思いますが、これも主人のいいつけと鎌倉にやつて来ます…。

能 遊行柳

一遍上人の教えを広めるため諸国を廻っている遊行上人。奥州に向かう途中、白河の関を過ぎて数本の分かれ道がありました。そこへ老人が現れ、先代の遊行上人が通つた古道へ上人を導きます。寂しい古道を行くと古塚と柳があり、老人は柳が「朽木の柳」という名木で、昔西行法師がここに旅し「道の辺に清水流るる柳蔭、暫しとてこそ立ちとまりつれ」という和歌を詠んだことなどを語ります。

上人から十遍の念仏を授かると、老人は朽木の柳に身を寄せるように消えてしまいました。

里人から朽木の柳のいわれを聞いた上人は、念仏を唱え仮寝します。すると柳の精が現れ、最前の老人は仮の姿で今本体を現したと明かし、草木までも成仏できる念仏の功德を讃えます。さらに柳にちなむ和漢の故事を挙げ、中国の皇帝は蜘蛛が柳の葉に乗り水上を渡る様子から船を思いついたこと、玄宗皇帝が楊貴妃を伴つた宮前の柳のこと、清水寺の楊柳観音のことなどを語り、十念（南無阿弥陀仏の名号を十回唱えて仏と結縁する）を受けた報謝の舞を舞うと、いつしかその姿は朽ちた柳となって消えてしまいました。

ご挨拶

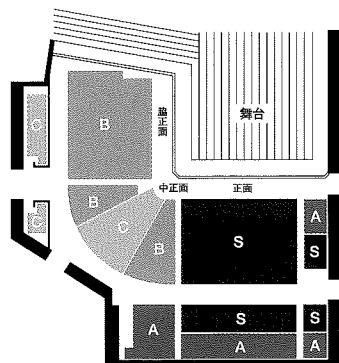
「香川靖嗣の會」をご支援くださりまして、誠に有難うございます。私は未だ手掛けていない曲、一度は勤めたいと思う曲が多くございます。僭越ながら今年は舞台上に臨む機会を秋にも開催させていただきますこととなりました。ご高覧いただき、一層のご鞭撻を賜りますよう、お願い申し上げます。

電話03-3991-8037 / F A X 03-3991-4462 (香川宅)

ホームページ <http://www.kagawa-seiji.com>

*平成28年4月2日第十回香川靖嗣の會「野宮」をご購入いただいたお客様には、秋の会のチケット代金を1割引とさせていただきます(D席は除く)。ご予約の際にお申し出ください。

チケットのお申込み



入場料 [一階：全席指定 / 二階：自由席]
S席 10,000 **A席 8,000**
B席 6,000 **C席 5,000**
D席 3,000 (二階全席)

[会場案内図]

十四世喜多六平太記念能楽堂
 東京都品川区上大崎4-6-9
 TEL:03-3491-8813



- JR山手線、東急目黒線、東京メトロ南北線、都営三田線ともに目黒駅下車、徒歩7分。
- 開演中の写真撮影及び録音・録画は固くお断りいたします。